

十両

頭) お奉行様。お呼びで。申し訳ありません。こちら何かやらかしましたか。

奉行) いやいや、そうではないのだ。頼みがあるから呼び出したのだ。

頭) はっ。えーつとあのあのお奉行様、頼みとは？こちらで出来ることでしょうか？

奉行) (辺りを見廻す) 実はな。金子(きんす)を盗まれたのじゃ。しーつ。

頭) えっ金子うーん。それは番屋か別の奉行所に御届けなすつたらいかがでしょうか？

奉行) 馬鹿者。それが何の何処からの金子かお主もよく知っているはずのあれだ。

頭) あっ。それは届けられませんな。でもお奉行様、もうこれ以上はご勘弁ください。

奉行) いやいや。そう言っておるのではない。盗んだヤツを懲らしめてやろうと考えたのじゃ。実はあの松の木の根元に穴を掘って欲しいんだが。もうそこしか考えられない。

頭) 落とし穴でしょうか。いつもお世話になり言いにくいのですが、少しばかり工賃を。

奉行) 了解しておる。こちらの頼みだ、しっかり遠慮なく言ってくれ。それでいくらだ。

頭) えー。では、申し上げます。二十五両(本音は五十両)でいかがでしょうか？

奉行) 何、二十五両？なんだ、次の北の丸のあれには参加しないのか。残念だな。

頭) あ一つ。入れて下さい。参加します。では、半値八掛けの十両でお願いします。

あーあ。誰にやらせようか。そうだ、この前しくじった親方にやらせよう。穴埋めか。

親方) お呼びで。はい。お奉行様の御屋敷に穴掘る。はい。五両で。承知しました。

頭) もうしくじりは許さんぞ、今度しくじったらもう仕事はないと思え。頼んだぞ。

親方) あーあ。誰にやらせようかな。そうだ、くまの野郎だ。やつは仕事が丁寧だ。

くま) はい。お奉行様の御屋敷に穴掘る。三両で。ガッテンだ。誰にやらせようか。

よた) うん。お奉行様の御屋敷に穴掘る。一両で。ねえ一両で饅頭いくつ買えるの？

くま) さあ。よた。ここがお奉行様の御屋敷だ。しっかり頼んだぞ。ごめんください。

よた) はい。ここに掘るんでげすか。はい。背丈の倍くらい。・・・出来ました。

奉行) もう出来たのか。何？出来てないじゃないか。何処に？あーつ(穴に落ちる)

よた) お奉行さん大丈夫でげすか？どうでげすか？

奉行) 大丈夫だ。よくできたな。おい。深すぎるぞ、これじゃ出られん。助けてくれ。

よた) はいはい。今助けますから、紐の先に付いてるその袋に、十両入れてちょうだい。

奉行) なんだ、こんな細い紐ではこの奉行が持ち上がらないし、助からんだろ。馬鹿者。

よた) うん。おいら馬鹿だからよく分ない。くれないなら、もう帰る。さいなら。

奉行) わかった。わかった。クソ。嵌めやがったな。畜生め。さあ持ってけ、泥棒。

よた) (スルスル紐を引っばる) ひ・ふ・み・よ・・・。今、助け呼んできますから。